

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第143回

(2023年10～12月期)

令和6年2月

桐生商工会議所

桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2023年12月1日

3. 調査期間 2023年10～12月期

4. 調査対象企業数 380企業（うち回答企業数130企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数19企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数56企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数28企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数27企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で－15。前期（－6）比は－9ポイントとなった。また前年同期（－22）比では＋7ポイントとなった。

業種別では、**建設業－5**（前期比－10、前年同期比＋8）、**商業・サービス業－26**（前期比－8、前年同期比＋25）、**機械金属製造業＋4**（前期比＋4、前年同期比＋4）、**繊維製造業－19**（前期比－26、前年同期比－23）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で－20。前期（－12）比は－8ポイント、前年同期（－28）では＋8ポイントとなった。

業種別では、**建設業－26**（前期比－5、前年同期比＋26）、**商業・サービス業－29**（前期比－6、前年同期比＋22）、**機械金属製造業－12**（前期比－17、前年同期比－12）、**繊維製造業－7**（前期比－10、前年同期比－11）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で－11。前期（－11）比では±0ポイント、前年同期（－24）比では＋13ポイントとなった。

業種別では**建設業－6**（前期比－6、前年同期比＋17）、**商業・サービス業－23**（前期比－5、前年同期比＋11）、**機械金属製造業＋25**（前期比＋35、前年同期比＋43）、**繊維製造業－17**（前期比－17、前年同期比－12）となっている。

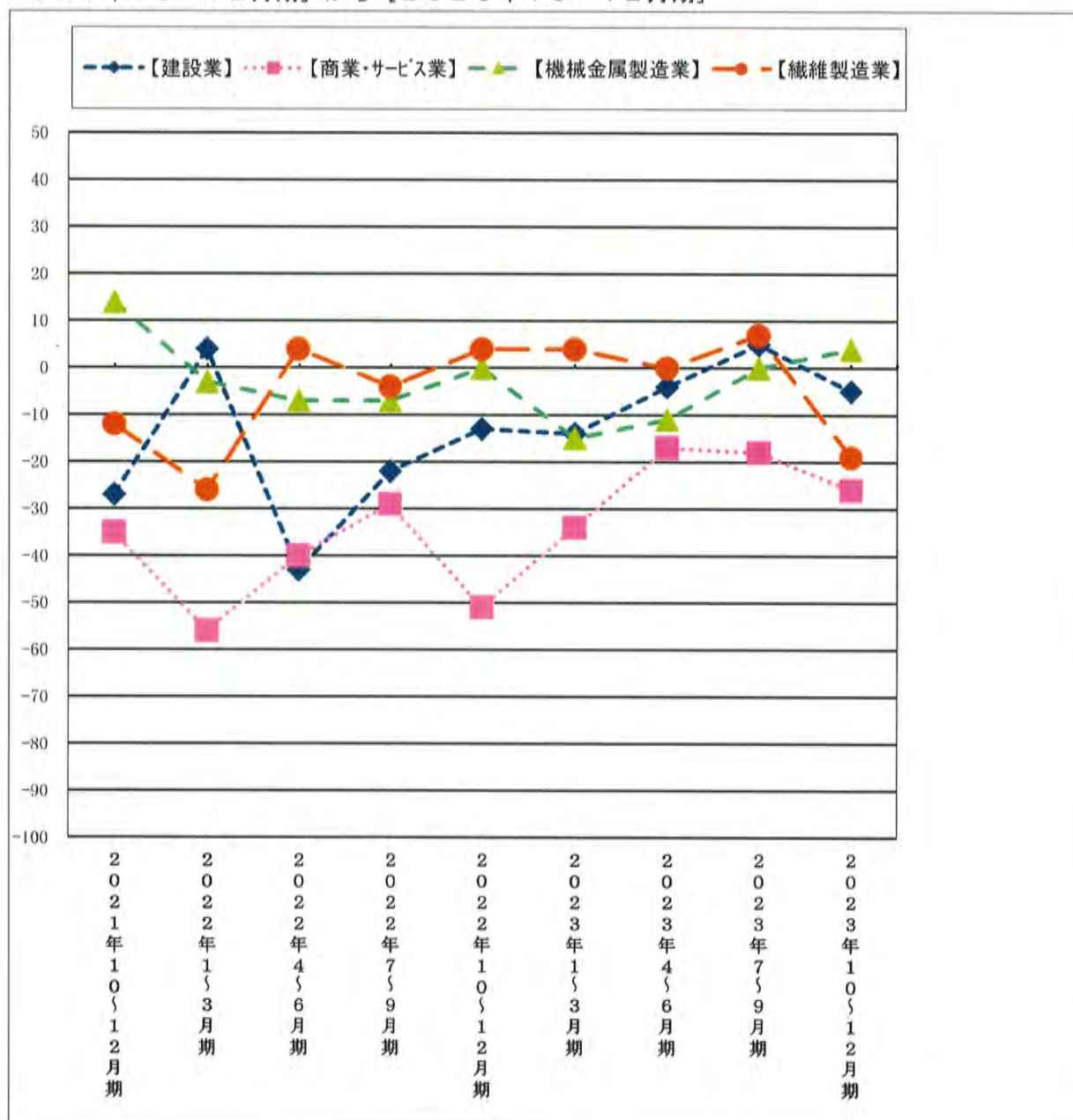
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（22.4%）「民間需要の停滞」（16.3%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（16.4%）「消費者ニーズの変化への対応」（14.5%）、**機械金属製造業**では「原材料価格の上昇」（14.9%）「製品単価の低下・上昇難」（13.5%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（20.5%）「需要の停滞」（16.4%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2021年10～12月期	-27	-35	14	-12
2022年1～3月期	4	-56	-3	-26
2022年4～6月期	-43	-40	-7	4
2022年7～9月期	-22	-29	-7	-4
2022年10～12月期	-13	-51	0	4
2023年1～3月期	-14	-34	-15	4
2023年4～6月期	-4	-17	-11	0
2023年7～9月期	5	-18	0	7
2023年10～12月期	-5	-26	4	-19

[2021年10～12月期] から [2023年10～12月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

●今期業況

今期の業況DIは－５。前期比は－１０、前年同期比では＋８ポイントとなった。

業種別では**建築・大工業〔＋１４〕、土木業〔＋１００〕、管工事業〔±０〕、鉄骨・鉄筋業〔±０〕、電気工事業〔－３３〕、その他〔－３３〕**ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－６。前期比－６、前年同期比では＋１７ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

●今期業況

今期の業況DIは－２６。前期比は－８、前年同期比では＋２５ポイントとなった。

業種別では、**卸売業〔＋５０〕、小売業〔－１９〕、飲食業〔－３３〕、サービス業では〔－４４〕**ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－２３。前期比－５、前年同期比では＋１１ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

●今期業況

今期の業況DIは＋４。前期比では＋４、前年同期比では＋４ポイントとなった。

業種別では、**鉄鋼業〔－１００〕、非鉄金属業〔±０〕、金属製品業〔＋１７〕、一般機械器具業〔±０〕、電気機械器具業〔±０〕、輸送用機械器具業〔＋４０〕、精密機械器具業〔－１００〕、プラスチック製造業〔＋４０〕、その他〔－５０〕**ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは＋２５。前期比＋３５、前年同期比＋４３ポイントとなっている。

【繊維製造業】

●今期業況

今期の業況DIは－１９。前期比では－２６、前年同期比では－２３ポイントとなった。

業種別では、**織物業〔－１０〕、染色整理業〔＋３３〕、ニット・メリヤス業〔－１００〕、レース業〔－１００〕、縫製業〔＋１００〕、刺繍業〔±０〕**ポイントとなった。

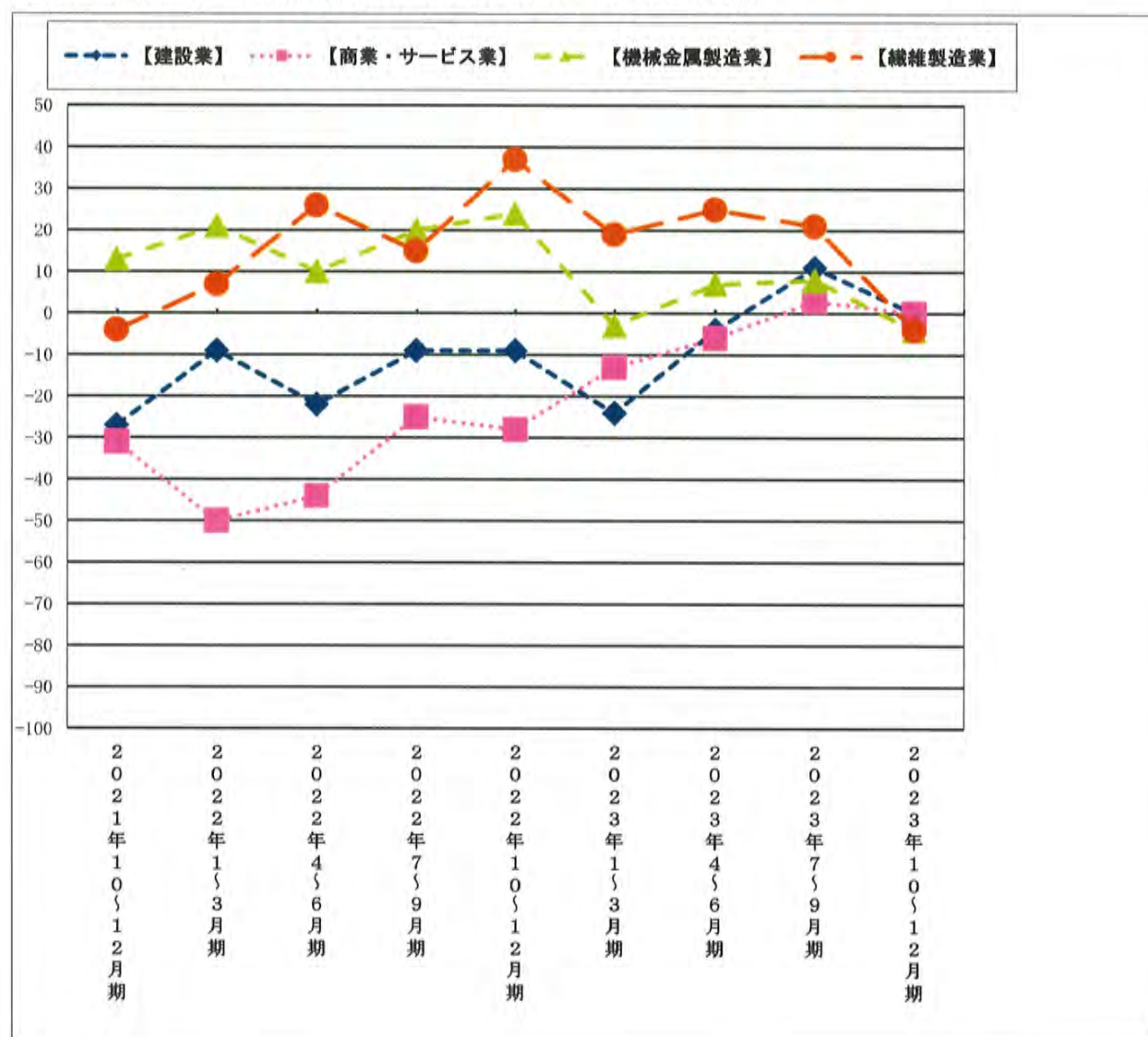
●来期業況

来期業況予測のDIは－１７。前期比－１７、前年同期比では－１２ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

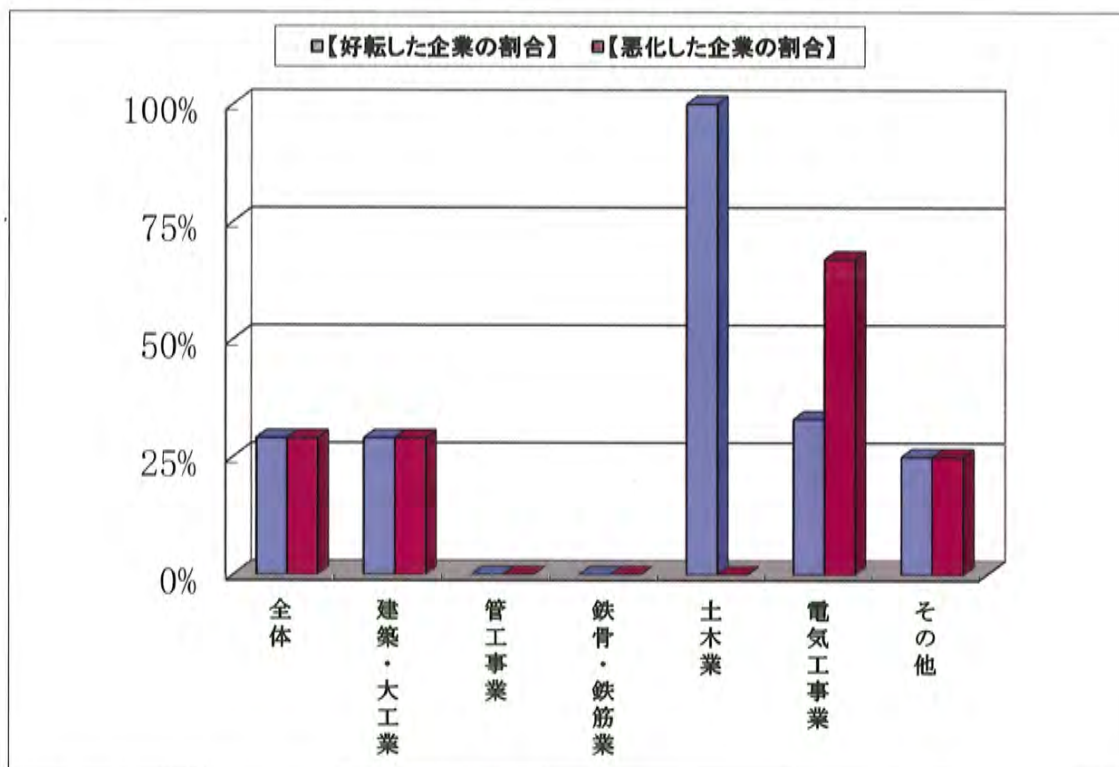
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2021年10～12月期	-27	-31	13	-4
2022年1～3月期	-9	-50	21	7
2022年4～6月期	-22	-44	10	26
2022年7～9月期	-9	-25	20	15
2022年10～12月期	-9	-28	24	37
2023年1～3月期	-24	-13	-3	19
2023年4～6月期	-4	-6	7	25
2023年7～9月期	11	3	8	21
2023年10～12月期	0	0	-4	-4

[2021年10～12月期] から [2023年10～12月期]

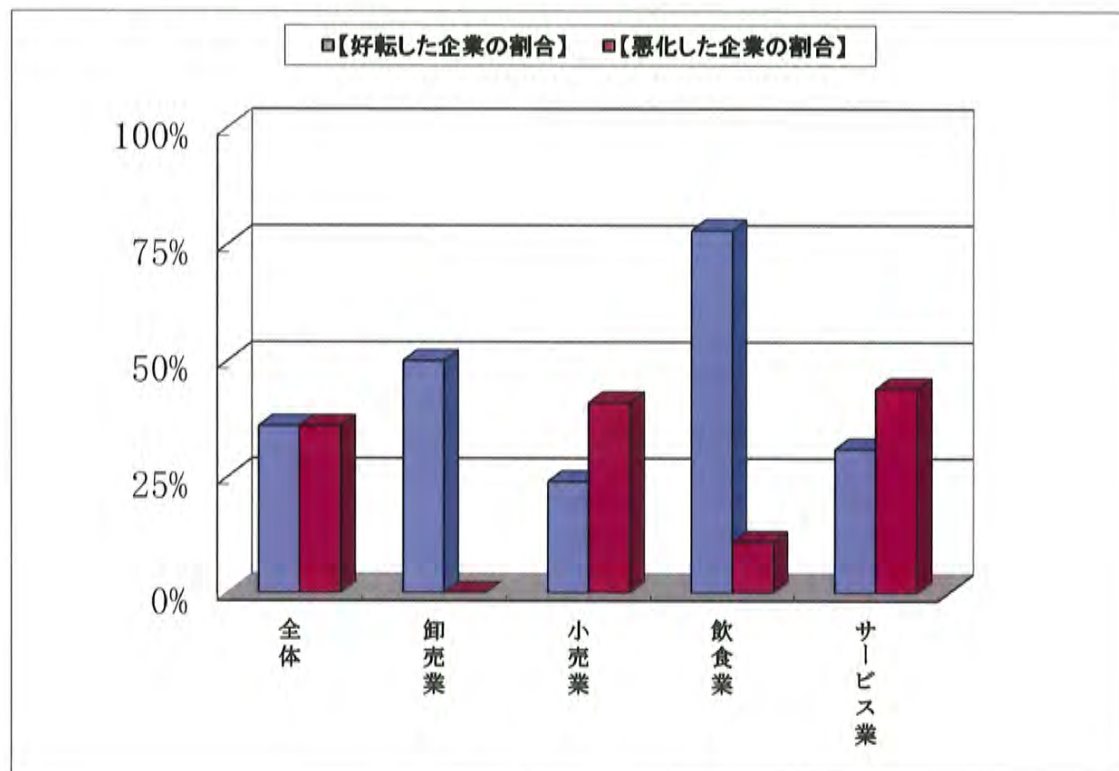


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

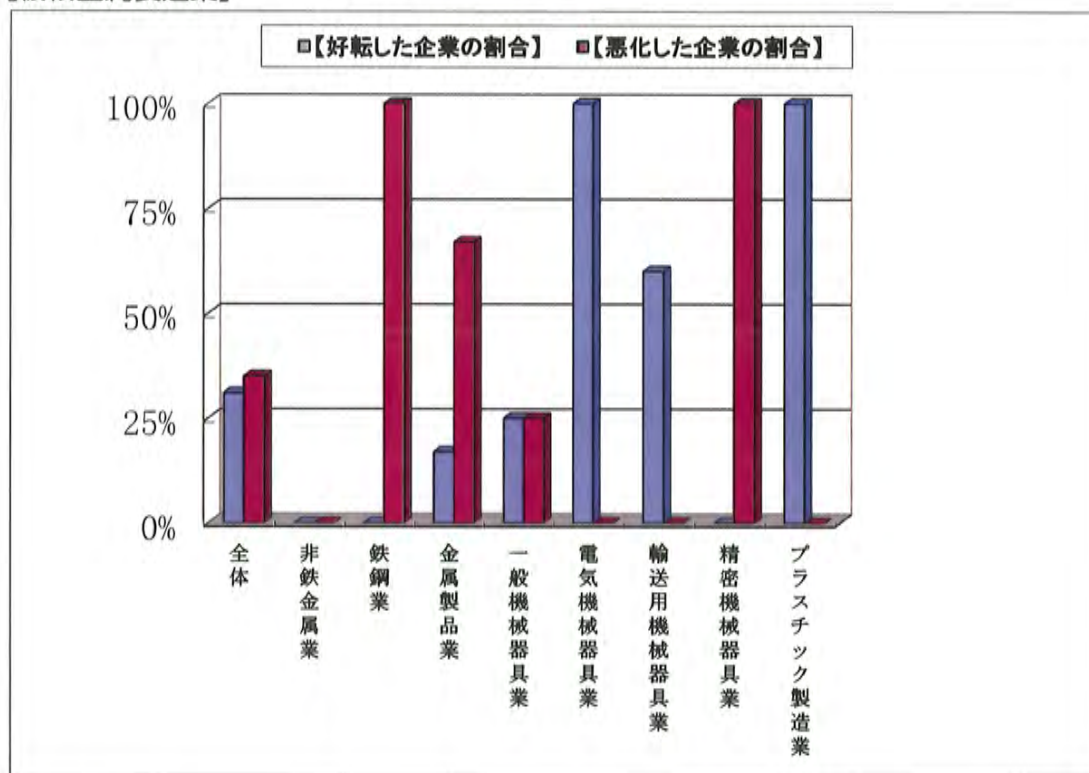
【建設業】



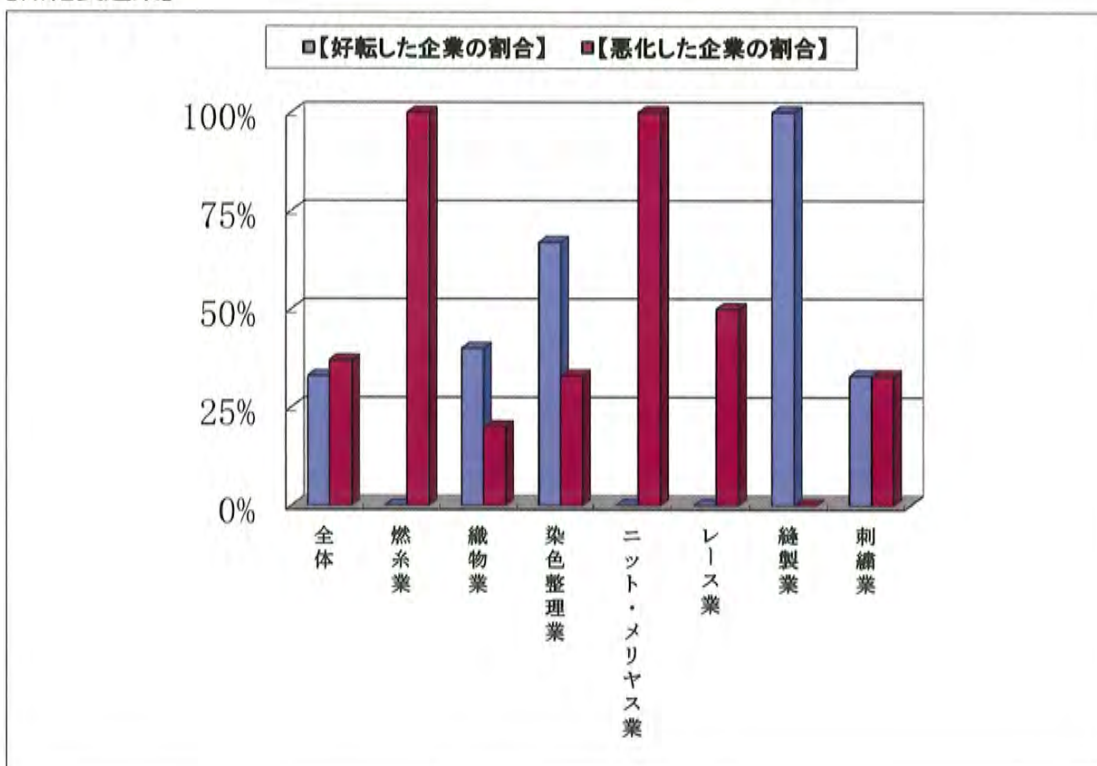
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



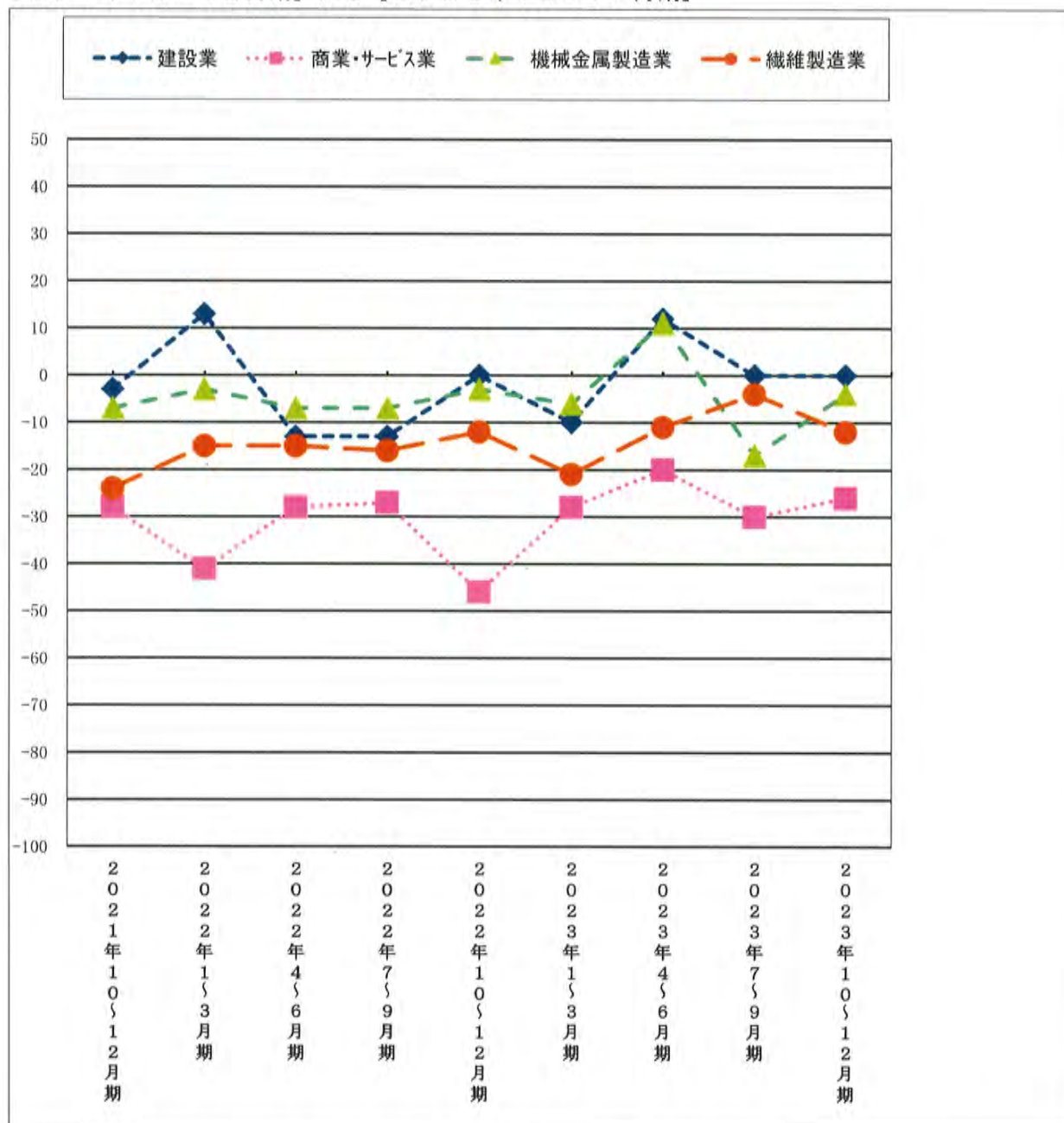
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
2021年10～12月期	-3	-28	-7	-24
2022年1～3月期	13	-41	-3	-15
2022年4～6月期	-13	-28	-7	-15
2022年7～9月期	-13	-27	-7	-16
2022年10～12月期	0	-46	-3	-12
2023年1～3月期	-10	-28	-6	-21
2023年4～6月期	12	-20	11	-11
2023年7～9月期	0	-30	-17	-4
2023年10～12月期	0	-26	-4	-12

[2021年10～12月期] から [2023年10～12月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	材料価格の上昇 22.4	民間需要の 停滞 16.3	従業員の確保難 14.3	材料の入手難 10.2	材料費・人件費 以外の経費の増加 10.2
前期	1位 23.4	3位 12.8	4位 10.6	8位 4.3	8位 4.3
前年同期	1位 23.3	2位 16.7	3位 15.0	5位 6.7	5位 6.7
商業・サービス業	材料等仕入単価 の上昇 16.4	消費者ニーズの 変化への対応 14.5	需要の停滞 13.2	従業員の確保難 10.5	人件費の増加 8.6
前期	1位 14.9	4位 10.1	2位 11.3	6位 9.5	5位 10.1
前年同期	1位 16.2	3位 11.7	2位 14.3	4位 8.4	7位 5.8
機械金属製造業	原材料価格の 上昇 14.9	製品単価の低下 ・上昇難 13.5	従業員の確保難 12.2	需要の停滞 12.2	原材料費・人件費 以外の経費の増加 12.2
前期	3位 9.0	7位 7.7	1位 19.2	2位 15.4	3位 9.0
前年同期	1位 18.4	5位 9.2	2位 14.3	4位 12.2	3位 13.3
繊維工業製造業	原材料価格の 上昇 20.5	需要の停滞 16.4	従業員の確保難 9.6	製品単価の低下 ・上昇難 9.6	生産設備の不足 ・老朽化 9.6
前期	1位 18.7	2位 14.7	3位 9.3	4位 9.3	3位 9.3
前年同期	2位 17.6	1位 20.3	6位 6.8	3位 12.2	4位 10.8

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- ・ 同業他社との競争激化
- ・ 従業員や熟練技術者の確保が難しい
- ・ 今までのやり方では未来が見えない。考え方の切り替えが必要
- ・ 今年度4月頃材料価格の上昇が始まり、更に9月初旬から材料の入手難が生じ、特に電線ケーブル等品不足がはじまり今後は心配している所

〔商業・サービス業〕

- ・ コロナは5類へ変わったが、インフルエンザ等流行もあり厳しい状況が続いている。電気代高騰を受け、週2日休み、午前中は閉めている。午後のみ営業し午後4時頃は閉店する。多くの店が閉まり商店街としての魅力を失っている。新しい店も出ているが人出が少ない
- ・ 消費者購買意識が変わったため対応ができなくなっている
- ・ 桐生に仕事でくる人が少ない
- ・ 材料の仕入取引問屋よりネット販売品の方が安く、仕入個数も少なくて良いので仕入に迷っている
- ・ 円安による食材物価の上昇が一番ネック。エネルギー等のコストの上昇による経費悪化、それによる一般家庭の消費減
- ・ 営業力の弱体化が認識されている。そのための事業資金を手当てすることが難しい
- ・ 一般葬中心の営業を展開中であるが、現状は家族葬が主流であり、また競合他社もあり増収が難しい現状である
- ・ 材料が15%以上上昇している。すべての価格に転嫁できないため苦しい状況がある
- ・ 人件費を主として諸経費高に伴う売上・利益の確保が課題

〔機械金属関連業〕

- ・ 原材料価格上昇分は売価に転嫁できたが、加工賃は値上げができず従業員確保のための賃上げ分、電気代他の高騰分が採算性を悪化させている。

〔繊維工業〕

- ・ 熟練技術者が少なくなったので新製品開発が思う様にいかずニーズに対応できない
- ・ インボイス制度での対応で苦勞している
- ・ 両毛地区だけでなくが廃業、倒産が増えている。日本のものづくりが難しくなっている